

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

○豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成

＜本年度の学力向上策＞

- 1 学校課題研究を通して教師の指導力向上、児童の意欲、主体性、粘り強さの育成**
 - (1) 「よい授業」の4つの因子やユニバーサルデザインを視点とした授業改善と実践をする。
 - (2) 体育科の学習を通して「アクティブ・ラーニング」の授業づくりを行う。
- 2 全国学力・学習状況調査とさいたま市学習状況調査の結果の分析と活用**
 - (1) 平成29年度のさいたま市学習状況調査の分析における成果と課題の把握をする。
 - (2) 基礎基本的な知識・技能を確実に定着させ、児童の自信とやる気を育てる。
- 3 平成29年度の小中一貫研修会で明らかになった児童の学力の課題の克服**
 - (1) 小・中一貫カリキュラムの中に、小中一貫合同研修会で小中学校の教員で話し合った学力の課題を克服するための方策を明記した。
 - (2) 小・中一貫合同研修会で明らかになった課題を各学年で意識した授業を行う。
- 4 算数 TT の効果的な活用**
 - (1) 算数の少人数指導の効果的な活用を通して学力の向上を目指す。

＜本年度の振り返り＞

- 体育科の学習を通して、目標に向かって粘り強く取り組む姿が多く見られた。また児童アンケートの「毎回のめあてにチャレンジはできていますか」の項目で98.2%が肯定的な回答をしており、学びに対する主体性を育むことができたと考えられる。
- 「アクティブラーニング」の授業づくりにおいては、全校で体育科の学習の中で「教え合い」「学び合い」の場면을意図的に設定してきた。その結果アンケートの「友達のよいところを見つけたり、アドバイスしたりして運動(学習)していますか」の項目では、肯定的な回答が平均93%以上と高い割合を占めた。
- 小中一貫合同研修会から挙げられた本校児童の課題とさいたま市の「よい授業づくり」を意識し日々の授業改善に取り組んできた。その結果、さいたま市の掲げる「よい授業の4つの因子」の中の「基礎基本的な学習内容の定着に関する項目」が市の平均値より「0.4ポイント」上回ることができた。
- スクールアシスタントや専科の教員を配置し、算数の少人数指導体制を組むことで平成30年度のさいたま市の学習状況調査の結果はどの学年においても良好な成績をおさめることができた。
- 全国、さいたま市の両方で「思考力」を問う問題にやや課題が見られるので、日々の授業の中で「思考力・表現力」を向上させるような手だてを講じていく必要がある。

